

本牧における須藤家の足跡

講師：武田（須藤）春子様

本牧の須藤家は本牧草分け 17 軒の中の一軒で 400 年の歴史があり、代々名主を務めました。貸地業を営み、原家に三溪園の土地を世話したのも須藤家です。今回は武田春子様（旧姓須藤様）に曾祖父の代以降の須藤家の歴史を語っていただきました。戦後、外国人向けの貸家業を営んでいた時は、暖冷房や台所の設備などを入居者の暮らし方に合わせて用意し、その修理業者の確保も大切な要素でした。横浜の真葛焼を輸出したハンガリーのコモール家、初代オランダ領事のドンケル・クルチウス家、チャールズ・ワグマンのパトロンの存在であったバーナード家とも由縁があった事も本牧ならではの立地です。須藤家の跡地に開館した横浜本牧絵画館には、武田様の母方の叔父に当たる画家・岩田榮吉（日本人画家として逸早くフェルメールに影響を受け、だまし絵を描いた）の作品が所蔵されています。



およそ10名の非会員の方が聴講に駆けつけました。

少し長めの自己紹介

発表：北泉剛史様（三溪園学芸員）

2017年10月から三溪園に勤める北泉学芸員に、研究分野や、これまでに勤めた博物館・美術館・資料館での活動について、少し長めの自己紹介をしてもらいました。学芸職に就くことが容易ではない昨今、静岡や群馬でそれまで専門にしていなかった近代日本画や近代洋画を扱ってきましたが、いざ、出身地・横浜に戻って三溪園に就職すると、不思議とこれまでの経歴が原富太郎の経営した富岡製糸場や、別荘のあった伊豆長岡方面とリンクし始めた様子が窺えました。原三溪市民研究会の今後の活動においてもお世話になる機会が増えそうです。



北泉氏の発表に熱い視線が注がれます。